

イスタンブール案内



在イスタンブール日本国総領事館
2025年6月

1. 基本情報

◇ トルコの一般事情 ◇

- 正式国名：トルコ共和国(Republic of Turkey) 1923年10月29日共和国を宣言。
- 面積：78万576km² (日本の約2.1倍)
- 人口：85,664,944人(2024年, 国家統計庁)
- 首都：アンカラ
- 民族：トルコ人、クルド人、少数民族としてアルメニア人、ギリシャ人、ユダヤ人、アラブ人等
- 宗教：イスラム教(大部分がスンニ派)が国民の9割以上。憲法で政教分離が定められている。
- 気候：地中海性気候
- 電圧とプラグ：電圧220V、周波数は50Hz。コンセントの形状は、Cタイプ・SEタイプが利用可能。
- 付加価値税：10%と20%
- 在留邦人数：トルコ国内:1,756人(2024年)
- 主要都市と人口：

イスタンブール	15,701,602人
アンカラ	5,864,049人
イズミル	4,493,242人
- 時差：日本との時差はマイナス6時間。夏時間はない。

(1)イスタンブールの特徴

トルコ最大の経済都市

トルコ全人口の18%を有し、トルコのGDPの約30%を占める(2023年, 国家統計庁)。また日本の経団連に当たるTUSIAD(トルコ産業・実業家協会)など主要経済団体の本部を始め、大企業、メディアの本社(国営アナトリア通信及びTRTを除く。)が多数存在し、トルコ唯一の証券取引所であるボルサ・イスタンブールも所在。

トルコ最大の文化・観光都市

イスタンブール旧市街地区(トプカプ宮殿、アヤ・ソフィア、ブルーモスクなど)は、1985年に世界遺産に指定された。トルコには19の世界遺産が存在し、世界から年間約4,920万人の外国人が訪れ、そのおよそ30%がイスタンブールを訪れている(2024年, 文化観光省)。

(2)通貨と両替

流通通貨はトルコリラ(TL)、
補助通貨はクルシュ(Kuruş)。
1TL=100クルシュとなる。

両替は、空港、ホテル、市内の
銀行、町中の両替店(トルコ語で
Dövizと表記)で可能であるが、レ
ートや手数料が店によって異なる。

- 為替レート
(2025年5月21日現在)
1TL=3.70円
1USD=38.85L
(1USD=143.91円)



(3) チップ

- ・ 空港ポーター 荷物1個につき、1ドル相当のトルコリラ。
- ・ タクシー おつりとして小銭が出る場合はそれをチップとするとよい。
スーツケース等の荷物がある場合には多めに支払うとよい。
- ・ ホテル 荷物1個につき、1ドル相当のトルコリラ。
サービスを依頼する時にも、1回につき1ドル相当のトルコリラ。
- ・ レストラン 勘定書の5～10%程度。
店によっては、勘定書にサービス料が含まれている場合がある。
- ・ 公共トイレ 係員がいる場合は表示金額を支払う。一般的に10トルコリラ程度。

(4) 電話

国際電話のかけ方（日本へのかけ方）

- ・ 0081に続いて、日本の市街局番から0を取った番号をダイヤルする。
例：東京 03-xxxx-xxxxに掛ける場合→0081-3-xxxx-xxxx

(5) 公共交通機関

イスタンブール中心部の交通量は多く、渋滞が激しい(特に、朝夕の通勤時間帯は移動時間に注意が必要)。市内の公共交通機関としては、タクシー、市営バス、民営バス、メトロバス(道路の中央に設けられた専用レーンを走るバス)、メトロ(地下鉄)の他、ミニバスやドルムシュと呼ばれる乗合タクシー、アジア側とヨーロッパ側を結ぶ連絡船やフェリー等がある他、旧市街と新市街には路面電車(トラムヴァイ)も走る。2013年10月29日にボスポラス海峡横断鉄道(マルマライ)が開通し、同鉄道は、ヨーロッパ側の旧市街シルケジ、アジア側のウスキュダル間を約4分で結ぶ。

イスタンブール空港から市内へのアクセス方法は主に以下の3つ。

- ① メトロ(地下鉄)
- ② タクシー
- ③ 空港バス (Havaist)

【地下鉄、路面電車】

タッチ決済対応クレジットカードを改札にかざす(空港メトロM11線では非対応)か、回数券、右写真のイスタンブール・カード(Istanbulkart。プリペイド式カード。リチャージ可能。)のいずれかを購入し乗車する。1回当たりの運賃は、クレジットカード・回数券利用時：40トルコリラ、イスタンブール・カード利用時：27トルコリラ(運賃定額)。基本的に深夜は運行しないが、週末のみ深夜も本数を減らして運行している。空港メトロM11線は毎日06:00-00:00の間で深夜の運行は無い。



【マルマライ(ボスポラス海峡横断鉄道)】

乗車方法は上記地下鉄等と同じ。各駅で購入可能。運賃は乗車した駅によって異なる。(最大59.76トルコリラ)

※イスタンブール路線図は下図または[ウェブサイト](#)参照

【空港バス(Havaist)】

空港からの目的地が新市街であればHVL-9線のタクシム行き、旧市街であればHVL-1線のアクサライ駅行きが便利。24時間運行しており、30分から1時間に1本出ている。空港内の案内表示に従って地下のバス乗り場に行き、チケットは窓口や販売機で購入するか、バスの係員から直接購入する。市内から空港に向かう際も、指定のバス停から乗り込む際に係員からチケットを購入する。詳しい時刻表、バス停の場所、チケット料金などは[Havaistのウェブサイト](#)を参照。

【その他】

ボスポラス海峡を挟んでヨーロッパ側とアジア側の2大陸にまたがるという土地柄、フェリーは市民の日常的な交通手段の一つである。当地には市営・民営の複数の船会社が、ヨーロッパ側とアジア側を結ぶ連絡船を運航している。主な路線として、カラキョイ～カドウキョイ、エミノニュ～カドウキョイ、エミノニュ～ウスキュダル、ベシクタシュ～ウスキュダル、ベシクタシュ～カドウキョイ、などがある。また、シルケジ～ハレム間ではカーフェリーが運航している。利用料金は路線によって異なる。カラキョイ～カドウキョイ間では38.11トルコリラ(イスタンブール・カード利用時)。

(6)郵便

郵便局は、「PTT」と書かれた黄色い看板が目印。営業時間は、基本的に月曜日から金曜日の08:30～12:30、13:30～17:30(地区や局によって営業時間が多少異なる)。中心地では土曜日に営業しているPTTもある。日本への郵送に要する日数は、手紙・はがきで約1～2週間、小包は航空便で約1～2週間、船便の場合は約2～3か月を要する。

(7)禁煙法

2008年5月に禁煙法が施行され、屋内、公共交通機関(タクシーを含む)、レストラン、バー、カフェ等(野外は除く)での喫煙は禁止となった。禁煙法に違反した場合には、喫煙者に対して365～617トルコリラ、喫煙場所の責任者に対しても8,540～42,858トルコリラの罰金が科される。また煙草の吸い殻を捨てた者に対しても、3,036トルコリラの罰金が科せられる。

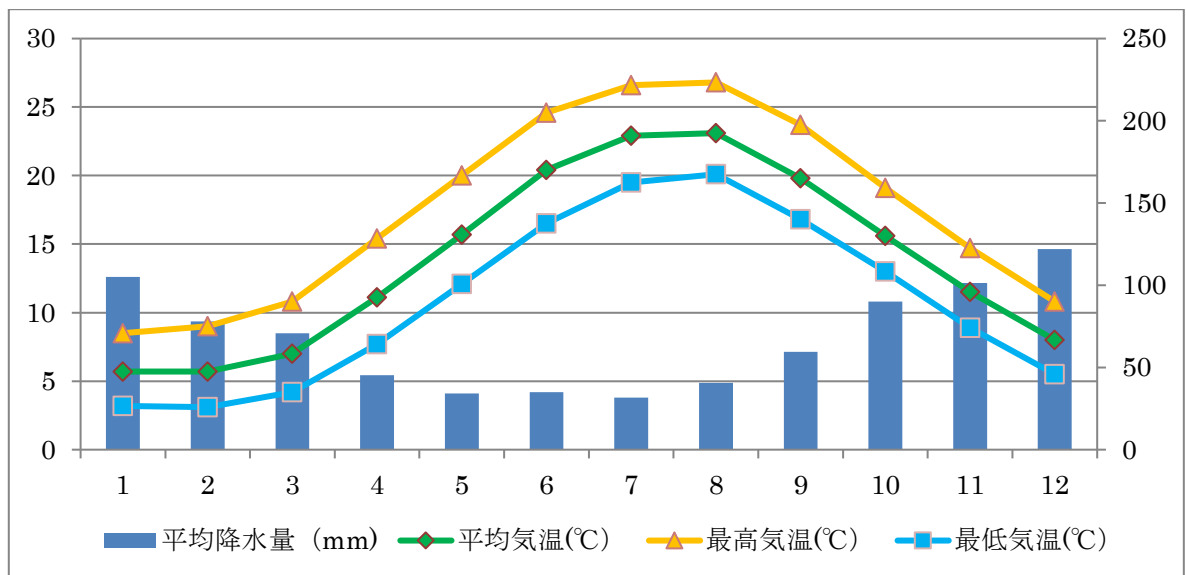
(8)新アルコール法

2013年9月9日に「新アルコール法」が施行され、午後10時から翌朝6時までの酒類販売が禁止されている。しかし、レストラン・バー等に関しては、右時間帯でも酒類の提供は可能となっている。その他、トルコの選挙投票日には夕方5時から翌日まで酒類販売が禁止。イスタンブール以外の都市では屋外での飲酒を禁止している都市もあるため、注意が必要。

(9)気候

イスタンブールでは、日本同様の四季を感じる事ができる。春は過ごしやすい陽気で、夏は比較的雨が少なく、気温が30度を超える日もある。10月から1月にかけて降雨量が増え、曇りの日が多くなる。冬には雪が降る日もあるため、防寒対策が必要となる。観光のベストシーズンは6月から9月。

【イスタンブールの平均気温・降水量等】



上線グラフー最高気温 中線グラフー平均気温 下線グラフー最低気温 棒グラフー平均降水量

2. 観光

(1) 概観

イスタンブールは、ボスポラス海峡によってヨーロッパ側とアジア側に分かれている。両大陸は、第一・第二・第三ボスポラス大橋、ボスポラス海峡横断鉄道(マルマライ)、ユーラシアトンネルで結ばれている他、フェリーが運航している。ヨーロッパ側は金角湾を挟んで北側が新市街、南側が旧市街に分けられる。新旧市街は、ガラタ橋など4本の橋で結ばれている。主な観光名所は、旧市街に集中しており、健脚な人は徒歩でも充分観光が出来る。また市内の主な名所を効率良く回るバスツアーが運行されており、これらのツアーは各旅行会社、主なホテルで予約可能。新市街はビジネスの中心地であり、近代的なビルや高級ホテルが立ち並んでいる。

(2) 主な名所

旧市街

金角湾とマルマラ海及びビザンチン時代に築かれたテオドシウスの城壁に囲まれた区域。イスタンブール歴史地区として、1985年ユネスコの世界遺産に登録されている。

【トプカプ宮殿 (Topkapı Sarayı)】

開館時間: 09:00-17:00(入館16:30まで)

※火曜休館

入場料: 2,000トルコリラ(トプカプ宮殿+アヤイリニ+ハレム)

※中庭を含め敷地内全域禁煙

コンスタンティノープルを征服したメフメット2世の命により建設され、1467年に完成。1856年にアブドゥルメジト1世がドルマバフチェ宮殿に居を移すまで、オスマン帝国の歴代スルタンの居城であり、行政の中心であった。

ボスポラス海峡と金角湾、マルマラ海を一望できる丘の上

に位置し、外壁は全長約5km、敷地面積は約70万㎡に及ぶ。ここにはスルタンとその家族を始めとして、最大約4,000人もの従者らが暮らしていたといわれる。トプカプの名の由来は、海峡に面した場所に大砲(トプ)を据えた門(カプ)があったため。宮殿内の「宝物殿」では歴代スルタンが収集した宝物が展示されており、中でも、漁師が拾った原石をスプーン職人がスプーン3本と交換したといわれる86カラットのダイヤモンドや、イランのナディール・シャーに贈るために作られたが、反乱によりシャーが処刑されたために贈れずに残ったトプカプの短剣等が有名。

* ハレム

内壁の中には「ハレム」と呼ばれる、スルタンとその家族の居所及び政治行政が行われた中枢部分がある。歴代のスルタンが増改築を重ねたため、いくつもの建物や部屋が連なり、庭園や離れなどもある複雑な構造になっている。



【アヤ(ハギヤ)・ソフィア (Aya Sofya)】

開館時間: 夏期 08:00-19:30

冬期 09:00-19:30

※金曜日は12:00-14:30閉館

入場料: 25ユーロ(音声ガイド込み)

※音声ガイドは自分の端末でQRコードを読み取ることで入手可能。イヤホンをレンタルすることもできるが有料のため、持参を推奨する。

325年、キリスト教を国教と定めた東ローマ帝国のコンスタン



ティヌス1世が建てた木造の礼拝堂を、360年、コンスタンティヌス2世が大ドームを持つ聖堂として完成させたが、404年に起こった主教追放の騒乱によって焼失。テオドシウス2世が415年に再建するが、532年、競馬場での揉め事から始まったとされるニカ(勝利)の暴動により再び焼失。現在残る建物は、ユスティニアヌス1世が自身の威信にかけ、焼失から1か月以内に再建着工を命じたといわれ、537年に完成した。完成時には盛大な献堂式が執り行われ、アヤ・ソフィアはギリシャ正教の総本山となった。以後約千年の間、これを超える大きさの聖堂が築かれることはなく、現在でも世界第4位の規模を誇る。アヤ・ソフィアはその後地震によるドームの崩落や、第4次十字軍の略奪等の災難に見舞われ、1453年には、オスマン帝国のメフメト2世によりコンスタンチノーブルが征服され、アヤ・ソフィアはイスラム寺院(モスク)へと姿を変えた。アヤ・ソフィアとは、「神の聖なる知識」を意味しており、この呼び方は、モスクになってからといわれている。歴代スルタンにより数々の増築、改修が加えられ、18世紀には壁のモザイク画やフレスコ画も漆喰で覆われた。トルコ共和国成立後の1934年に初代大統領ケマル・アタテュルクによって宗教的施設としての使用が禁止され、博物館として開放された際に漆喰が除去され、その下から多くのモザイク・フレスコ画が出現した。2020年7月に再びイスラム寺院(モスク)へと変わった。2024年1月に、トルコ国籍を持たない外国人観光客からの入場料徴収が始まった。アヤ・ソフィアの大ドームは高さ56m、直径は32mと31mの楕円形で、内部ではキリスト教時代ビザンチン美術の傑作とされるモザイク画やモスクへの改修後に施された装飾があり、礼拝時間以外に鑑賞できる。

【ブルーモスク (Sultan Ahmet Camii)】

開館時間: 夏期 08:30-19:00, 冬期 08:30-17:00

※金曜日は14:30より入場可能 (1日5回の礼拝の時間帯は入場不可)

1616年完成。スルタン・アフメト1世が建築家メフメト・アーに「黄金(アルトゥン)のミナレット(尖塔)を持つモスクを造れ」と命じたが、メフメト・アーが「6本(アルトゥ)のミナレット」と聞き違えたため、世界でも珍しい6本の尖塔を持つモスクが完成したといわれる。中央にある大ドームは高さ43m、直径は23.5mであり、象の足と呼ばれる4本の巨大な大理石の柱で支えられている。内部は、ブルーモスクと呼ばれる所以となった青色を基調としたイズニック・タイルで飾られている。モスク内は、260個ある窓から差し込む自然光が荘厳な雰囲気を出す。



【考古学博物館 (Arkeoloji Müzesi)】

開館時間: 09:00-21:00 (入館20:00まで)

入場料: 15ユーロ

1881年にトルコ人考古学者ハムディ・ベイにより、開設されたトルコで最初の考古学博物館。当時、欧米列強がトルコの考古学的遺物に注目し、遺跡からの発掘品を数多く国外に持ち出していた。その散逸を惜しみ、遺物の収蔵施設として博物館を開設。収蔵品は紀元前15世紀から20世紀まで、10万点にも及ぶ。見所として紀元前4世紀のものとされるアレクサンダー大王の石棺、紀元前3世紀のものとされる嘆き悲しむ女たちの石棺、紀元前5世紀のものとされるリキアの石棺等が有名。

【地下宮殿 (Yerebatan Sarnıcı)】

開館時間:09:00-22:00

入場料:09:00-18:30 1300トルコリラ

19:30-22:00 2000トルコリラ

6世紀に造られた地下の大貯水池。コンスタンティヌス1世が建設し、ユスティニアヌス1世が増築した。幅70m×奥行き142m×高さ8m、約8万立方メートルの水が貯水可能だったといわれる。336本あった柱は周辺のギリシャ神殿から運んできたといわれ、そのほとんどがコリント式の柱頭を持っている。一番奥にはギリシャ神話に登場するメデューサの頭部像が台座として使用されている。この施設はビザンチン時代からオスマン朝時代までアヤ・ソフィア、トプカプ宮殿のための重要な貯水施設として利用された。柱が整然と並ぶ様を宮殿になぞらえ、「地下宮殿」と呼ばれるようになった。



【ローマ競技場跡（ヒポドロム）（Hippodrome 'At Meydanı'）】

ローマ時代に戦車競技が行われていた大競技場跡。現在は公園になっており、3本のオベリスクが残っている。その内の1本は、エジプトから運ばれて来たもので、高さが26mの柱にはヒエログリフが、土台部分にはテオドシウス帝の偉業や、オベリスクを運んだ当時の様子が刻まれている。もう1本は、コンスタンティヌス帝の時代に、ギリシャのアポロン宮殿から運んできたものと言われている。

【ヴァレンス水道橋（Bozdoğan Kemer）】

378年ヴァレンス皇帝時代に完成。橋の上に溝が掘られており、ローマ時代からオスマン朝時代の19世紀後半まで長年にわたり、黒海に近い森（ベオグラードの森）の水源から約20kmに渡りイスタンブール中心部へ水を供給し続けた水道橋の一部。現在でも残っている箇所は、長さ約800m×高さ26mのみ。

【グランドバザール（Kapalı Çarşı）】

08:30-19:00 日曜定休

グランドバザールは1461年メフメト2世により建設され、スレイマン大帝によって拡張されたが、その後、再三にわたり火災や地震で壊れ、18世紀になって現在の石造りのものになった。トルコ語では「カパル・チャルシュ」（屋根付き市場）と呼ばれている。迷路のような敷地内には、約5,000弱の店舗があり、貴金属、宝石類、骨董品、絨毯、トルコタイル、陶磁器の皿、海泡石のパイプ、銀製品、民族衣装、皮革製品など、ありとあらゆる物が売られている。また、中心部にある最も古い一角は、オールド・バザール（イチ・ベデステン）と呼ばれ、骨董品、金銀細工を売る老舗が並んでいる。



【エジプシャンバザール（Mısır Çarşısı）】

平日・土曜日 08:00-19:30 無休（※店によっては日・祝日定休）

日曜日 09:30-19:00

ガラタ橋の旧市街側のたもとにあるイエニ・モスクに隣接する香料市場がエジプシャンバザールである（トルコ語では、「ムスル・チャルシュス」という）。かつてここで売られていた商品の多くがエジプトのカイロ経由で輸入されたことから、この名が付いた。取り扱う商品としてハーブなどの香料が多かったことから、別名スパイス・バザールとも呼ばれる。グランドバザールに比べて、食料品や雑貨など、庶民の日常の暮らしに関係が深い商品が多いのが特徴。カラスミやキャビア、サフランなどの香料、ピスタチオなどのナッツ類などが手に入る場所として、多くの観光客が訪れる。



【カーリエモスク（Kariye Camii）】

開館時間:09:00-18:00※金曜は礼拝のため休館

入場料:20ユーロ

413年に建設された東ローマ帝国時代の教会で旧名はコーラ修道院。その後オスマン帝国時代ではモスクとして使われ、14世紀のビザンチン・ルネッサンスの代表とされていた。特に、聖書に基づくキリストと聖母マリアの一生を表した大小約100個のモザイク画が有名である。2020年10月30日の金曜礼拝をもって再びモスクとなった。2024年5月、約4年間の改修工事を経て一般公開された。

【イエニ・モスク（Yeni Camii）】

「新しいモスク」を意味する、ガラタ橋のたもとにあるモスク。ムラット3世の妃の命令により1597年に建設が始まり、その後建築家の死去等の事情で一時建設が中断したが、ぜい弱な地盤を強化して、1660年にメフメット4世の母により建設が再開され、1661年～63年に完成したと言われている。

【ガラタ橋（Galata Köprüsü）】

金角湾河口近くの、新市街と旧市街を結ぶ交通の要衝。最初の橋は1845年に架けられ、その後、数度にわたり改修・増築された。現在の橋は1992年、旧橋の横に架けられた新しい橋であり、旧橋は現在の橋の完成直後に焼失した。ガラタ橋周辺は釣りのポイントとして有名であり、連日多くの釣り人が釣り糸を垂らしている。橋のたもとのエミノニュ港はアジア側とヨーロッパ側を行き来する人々を乗せたフェリーが発着し、イスタンブールでも活気のある場所のひとつである。

【スレイマニエ・モスク（Süleymaniye Camii）】

オスマン帝国が最も栄えた時期に君臨したスレイマン大帝の命により、1557年当時トルコ随一の建築家といわれたミマール・シナンが建てたもの。アヤ・ソフィアを模して設計されたと言われる。

【シルケジ駅（Sirkeci Tren İstasyonu）】

1883年10月、パリからイスタンブールまでの国際列車、オリエント急行の終着駅として建設された。現在は、マルマライのシルケジ駅がある。

【テオドシウス城壁（Teodos Surları）】

413年、東ローマ帝国のテオドシウス2世によって建造された城壁。マルマラ海から金角湾まで約6kmにわたって建てられていた。建設当時は2重のしっかりした城壁で、現在も当時の姿を一部残している。

【イエディクレ（Yedikule）】

「7つの塔」を意味するマルマラ海近くのテオドシウス城壁の要塞。オスマン帝国時代は補虜収容施設とし

て使われた。

【テクフル宮殿 (Tekfur Palace)】

開館時間:09:00 - 17:00(入館16:30まで)※月曜休館

入場料:300トルコリラ

ファティ地区のエディルネカプに位置する。イスタンブールのブラヘルネ宮殿施設群のうち、唯一現存する宮殿。

新市街

金角湾の北側に展開する市街。かつては、城壁に囲まれ、ジェノヴァ人の居住区となっていた。金角湾の水辺から北に向かうにつれて街の雰囲気が変わり、高級ブティックやファッション店が並ぶイスティクル通りを経て、タクシム広場へ通じている。なお、この周辺には、欧州各国の総領事館や航空会社、銀行、高級ホテルが立ち並んでいる。

【ドルマバフチェ宮殿 (Dolmabahçe Sarayı)】

開館時間:09:00-17:00 月曜休館

※写真撮影禁止

入場料:1,500トルコリラ(隣接の国立絵画博物館込み)

オスマン帝国後期のスルタンが、旧市街のトプカプ宮殿から移って居城にした宮殿。1854年、アブドゥルメジト1世の時代に埋め立て地に建設。宮殿名もこの「埋め立てられた庭」に由来する。当時の西欧化思考を反映して、フランスのバロック様式が取り入れられた宮殿として知られ、家具類の多くもフランスから調達された。大サロンにあるイギリスのビクトリア女王から贈られた重さ4.5トンの大シャンデリアは見応えがある。トルコが共和制に移行してから、初代大統領アタテュルクが官邸として使用していたが、同大統領は1938年11月10日午前9時5分、執務中に同宮殿で逝去した。このため宮殿内の時計は故人を偲び、今も9時5分を指したままである。



【軍事博物館 (Askeri Müze)】

開館時間:09:00-16:30 月曜休館 軍楽隊演奏:15:00-16:00

入場料:400トルコリラ

トルコの軍隊、戦争に関する資料、武器、軍服、遺品などが展示してある博物館。建物は元軍学校で、アタテュルクもここで学んだ。午後のオスマン軍楽隊(メフテル)の演奏は、一見の価値がある。

【ガラタ塔 (Galata Kulesi)】

開館時間:08:30-23:00(入館22:00まで)

入場料:30ユーロ

東ローマ帝国時代にこの地に住み着いたジェノヴァ人が、居住地の城壁の守りと陸・海の見張りをかねて建てた塔。一時は牢獄として使われていたこともあったが、最後は火の見の塔として使われていたといわれる。旧名は「ペラ塔」(この地区はペラと呼ばれていたため)。現在は内部にエレベーターがあり、最上階は狭いながらも回廊になっていて、イスタンブールを360度眺めることが可能。



【ルメリ・ヒサル (Rumeli Hisarı)】

開館時間:09:00-18:00(入場17:00まで)月曜休館

入場料:6ユーロ

コンスタンティノープル征服のためにオスマン帝国のメフメト2世が、その足場にするため、1453年に4か月という短期間で建設した要塞。壁づたいに階段を上がると、第二ボスボラス大橋やボスボラス海峡を一望することができる。なお、「ルメリ」とは「ヨーロッパ」を意味し、対岸には「小アジア」を意味する「アナドル」要塞があり、対を成している。またこの辺りは、ボスボラス海峡の最狭部に当たりその幅は698m。

【イスティقلال通り (İstiklal Caddesi)】

新市街の中心であるタクシム広場から西に伸びる通りで、トルコ最大の繁華街の一つ。ブティック、レストラン、銀行、映画館などが並んでいる。車の通行は禁止されている。通り沿いに路面電車(トランヴァイ)が運行している。

【オルタキョイ (Ortaköy)】

オルタキョイは第一ボスボラス大橋近くのヨーロッパ側の海辺の地区。アクセサリーやおみやげ物を中心としたお店や、カフェが並んでいる。クンピル(バターとチーズを混ぜたマッシュポテトにピクルス、ソーセージ、コーンなどをトッピングしたもの)はオルタキョイ名物の一つ。

アジア側

【ベイレルベイ宮殿 (Beylerbeyi Sarayı)】

開館時間:08:00-19:00 月曜休館

入場料:600トルコリラ

第一ボスボラス大橋のたもとにある宮殿。1865年、スルタン・アブデュルアズィズ帝の命により建設された夏の離宮。ドルマバフチェ宮殿と同様、バロック様式とオスマン朝様式を合わせた折衷様式の宮殿。対岸にあるドルマバフチェ宮殿の小型版という意味を込めて、キュチュク・サライ(小宮殿)とも呼ばれている。船をモチーフにした豪華な内装は、船が好きだったスルタンの趣味を反映したもの。24の部屋と6の広間があり、内部は日本等の各国から取り寄せた陶器、フランス製のシャンデリアで飾られている。

【ウスキュダル (Üsküdar)】

「ウスキュダルはるばる訪ねてみたら・・・」という歌で日本でも有名なこの地区は、古いトルコの面影を残す木造家屋が並ぶ閑静な住宅街。この辺りから眺める対岸のアヤ・ソフィアやブルーモスクの日没時のシルエットは、幻想的で美しい。

【ハイダルパシャ駅 (Haydarpaşa Tren İstasyonu)】

1903年、バクダット鉄道のアジア側の起点として、当時のドイツ帝国により建設された駅。イスタンブール郊外への短距離列車やアナトリア方面の列車の発着駅として使われていたが、現在は工事のため閉鎖中。



ボスボラス海峡 (Boğaziçi)

ボスボラス海峡は、長さ約30キロ、幅員は約800mから3,500m。海峡の流れは、黒海とマルマラ海の水位と塩分の関係で、通常表面は黒海からマルマラ海へ、底流はその逆になっている。

19世紀以来、国際海峡問題といえば、ボスポラス海峡と、マルマラ海からエーゲ海に抜けるダーダネルス海峡の国際管理問題を指していたほど国際戦略上重要な海峡で、主要国がその支配権を狙って躍起になっていた。

【第一、第二及び第三ボスポラス大橋】

イスタンブールは、有史以来東西交通の要衝の地であり、現在もヨーロッパ・ハイウェイ(E-5)が市内を貫いている。E-5とアジア大陸を結ぶために、1973年第一ボスポラス大橋(正式名称:7月15日殉教者の橋, 中央支間長:1,074m)が建設された。その後、イスタンブールの人口増加に伴い、橋の交通量が予想を上回って急速に増加したため、1988年、日本の援助(円借款計616億円)により、日本の企業(IHI、三菱重工、日本鋼管)が参加して、第二ボスポラス大橋(正式名称:ファティフ・スルタン・メフメト橋, 中央支間長:1,090m)が建設された。2016年8月には、韓国企業により第三ボスポラス大橋(正式名称:ヤウズ・スルタン・セリム橋, 中央支間長:1,408m)が建設された。

【ボスポラス海峡クルーズ】

ガラタ橋の旧市街側のたもとにある船着き場エミノニュ(Eminönü)から、ボスポラス海峡を北上する定期観光クルーズ船が運航されている。一日一往復の運航で、終点のアナドル・カヴァウ(Anadolu kavağı)まで片道約2時間の船旅を楽しむことが出来る。その他、オルタキョイ(Ortaköy)やベシクタシュ(Beşiktaş)からもショートクルーズが運行されている。夏期には旅行代理店やホテルのプライベートボートも運航されている他、高級ホテルが催すディナー・クルーズなども人気が高い。

3. 食事

(1)トルコ料理

トルコ料理はフランス料理や中国料理と並び、「世界3大料理」の一つとされる。豊富な食材と絶妙なスパイスが織り成すトルコ料理は日本人の口にも合いやすい。なお、トルコはイスラム教徒が大半のため、豚肉を用いた料理はない。最も代表的な料理としては、角切りにした肉を串に刺して焼く「シシ・ケバブ」や、下味をつけた肉を積み重ねて円筒形の塊まりにして中心に鉄串を通し回転させて焼き、外側から薄く削いで食べる「ドネル・ケバブ」などがある。どれもスパイスや香味野菜を利かして羊肉独特の臭みを消す工夫がされている。

また、トルコ近海で獲れる新鮮な魚料理も人気。大きなレストランの中には、客が魚を選んで、焼く・揚げる・蒸すなどの調理法を指定するとそれに沿って調理してくれる店もある。主菜と共に重要なのが、「メゼ」と呼ばれる前菜。新鮮な野菜や魚介、豆類をトマトソース・オリーブ油などで調理したものが多く、様々な種類がある。「ラク」という独特の風味があるトルコ特産の強い酒と共に、トルコ料理には欠かせないものになっている。

(2)飲み物

- 水

イスタンブールの水道水は飲料に適さないので、ペットボトルに入ったミネラルウォーターを飲むことを推奨する。路上の売店やスーパー等で500mlのペットボトル1本当たり10～15トルコリラ程度で販売されている。

- アイラン

冷たいヨーグルトの飲み物。甘みはなく塩味で酸っぱいが、特に夏場には美味しく、肉料理と相性が良い。

- チャイ

トルコ人が日本人のお茶と同じ感覚で飲んでいるのがチャイ(紅茶)である。紅茶の葉を煮出したものをお湯で薄め、小さなグラスで飲む。



- エルマ・チャイ

林檎風味の甘酸っぱいお茶で、チャイと同じく小さなグラスで飲む。



- トルコ・コーヒー

コーヒーの粉に砂糖を加え、柄の長いジェズヴェという器で煮立てて作る大変濃いコーヒー。小さなコーヒー・カップで飲むが、底にコーヒーの粉が沈殿して残っている。飲み終わったカップを受け皿の上に逆さにして置き、粉の垂れた跡で占うコーヒー占いもある。なお、西欧でコーヒーが飲まれるようになったのは、1683年、ウィーン攻略に失敗して敗退したトルコ軍の陣地跡に置き去られたコーヒーの粉からヨーロッパ中に広まったという説もある。

- アルコール類

トルコ人の多くはイスラム教徒であるがアルコール類を嗜む人も少なくない。アルコール類は日本と同じく西欧のものを含め入手可能で、レストランでも供されている。また葡萄酒を蒸留した「ラク」と呼ばれる酒は、別名「ライオンのミルク」と呼ばれ、水で割ると白く濁るのが特徴である。口当たりは良いがアルコール度が高いので、深酔いしないように注意が必要。

2013年9月に「新アルコール法」が施行された結果、酒類販売は午前6時から午後10時までとなり、午後10時以降の販売は禁止。しかし、アルコールを提供しているレストラン・バー等については、酒類販売禁止時間帯でも提供可能。

● サーレップ

ラン科のサーレップという植物の根の粉末に牛乳、砂糖を入れて作る冬の代表的な温かい飲み物。シナモンやジンジャーを少し加えて飲むと体が温まる。

(3)トルコのお菓子

トルコのデザート(菓子類)は、総じて甘いものが多い。代表的なものとしては、ピスタチオの入ったパイにたっぷりシロップをかけた「バクラバ」、ライスプディング「ストラッチ」、ゼリー状の「ロクム」など。



4. 主要レストラン

総領事館で利用実績がある主なレストランは以下のとおり。

<トルコ料理>

Hanedan Restaurant Meat & Fish (ハネダン レストラン ミート アンド フィッシュ)

会食会場として当館の利用実績多数。ベシクタシュ埠頭近く。ボスポラス海峡の眺望有り。個室は無い。

住 所: Barbaros Meydanı, Motor İskelesi Yanı, Çiğdem Sokak No:3, Beşiktaş

電 話: +90 (212) 260 48 54

Seven Hills Restaurant (セブン ヒルズ レストラン)

スルタンアフメット広場近く。テラスからはアヤソフィアやブルーモスク、マルマラ海を見渡す事ができる。

住 所: Cankurtaran, Tevkifhane Sk. No:8 Kat:3, 34122 Fatih (Seven Hills内)

電 話: +90 (534) 522 37 93

Namlı Kebap (ナムル ケバブ)

総領事館より徒歩15分。当館館員の利用多数。南東アナトリア料理を主に提供する。肉料理に定評有。

住 所: Levent, Gonca Sk. no:3, 34330 Beşiktaş

電 話: +90 (212) 284 52 94

<日本料理>

Nobu Istanbul (ノブ イスタンブール)

リッツカールトン内。世界展開するNOBUグループのイスタンブール店。ボスポラス海峡の眺望有り。

最大12名を収容できる個室有り(要予約)。 ※個室は眺望無し

住 所: Askerocağı caddesi No:6. Elmadağ, Süzer Plaza, 34367 Şişli (Ritz Carlton内)

電 話: +90 (212) 334 30 34

Itsumi (五味)

総領事館より徒歩10分。当館館員の利用多数。寿司や天ぷらを中心に提供する。

住 所: Levent Mah., İş Kuleleri Kule 2 D:43, 34330 Beşiktaş

電 話: +90 (212) 264 64 48

Udonya (優曇也)

当館館員の利用多数。ポイントホテルタクシム内。メニューの幅広さに定評有り。個室有り(要予約)。

住 所: Kocatepe, Topçu Cd., 34437 Beyoğlu (Point Hotel Taksim内)

電 話: +90 (212) 256 93 18

5. 買い物

代表的なお土産

【絨毯・キリム】

かつてトルコ人が遊牧民であった時代に、最も重要な家財の一つが絨毯とキリムであった。絨毯の素材は、主に羊毛か絹で、糸の染色には天然の草木染めが用いられているものもある。織り目が細かく、裏と表の模様があまり変わらないものが高級品とされている。製作は若い女性の手作業によるもので、小さなものでも1年以上かかるため、一人の女性が一生の内に織ることができる絨毯の数は限られるといわれる。トルコで最も高価な絨毯は、ヘレケという村で織られたもので、特に細かい作業が必要な絹の絨毯は、指が細い少女時代にしか織ることが出来ないとされ、希少価値がある。最近では中国製の偽物も出回っているので注意が必要。キリムは絨毯より薄手の羊毛の織物で、様々な色や柄がある。値段も手頃で、店によっては日本に配送してくれる。

【トルコ石】

美しい空色で知られるトルコ石は、イランやエジプトが原産。昔、トルコを経由して世界に供給されていたため、この名が付いたと言われる。練り物やプラスチック等の粗悪品もあるので注意が必要。

【海泡石】

海泡石は世界中で採れるが、パイプなどに加工出来る良質のものは、トルコを中心とする地域でしか採れないといわれる。海泡石の特徴は、軽くて柔らかく加工がしやすいこと。海泡石のパイプを使い込むと、あめ色に変わってくことで知られている。

【トルコタイル】

モスクの内装には、美しいタイルが使われているが、中でもイズニック・タイルは有名である。

チューリップやカーネーションなどの花をモチーフにしたものが多い。

もろくて欠けやすいので実用には適さないが、壁飾りとして楽しめる。

【ナザールボンジュ】

丸い青いガラスに、目のような模様が付いているトルコのお守り。この目が魔除けになると言われている。幼児に付けたり、家に飾ったりする。



【金製品】

グランドバザールの目抜き通りには、宝飾品や金製品を売る店が並んでいる。但しここの金製品は必ずしも安いとはいえず、市中の他の店と比較することが望ましい。

【銀、銅製品】

金製品に比べて安く手に入るのが銀製品。お盆や鏡、花瓶、食器類、写真立てなどがある。また銅製品としては、エッチング加工された飾り皿や、トルコ風の鍋などがある。

【皮革製品】

ジャンパーやコートなどから、バック、財布などの小物まで種類も豊富。但し、中には粗悪品もあるの

で、縫製やなめしの良し悪し等に注意して選ぶ必要がある。

【食べ物】

ドライ・フルーツはあんず、イチジクなど、種類も豊富である。またピスタチオなどのナッツ類、はちみつも、質が高いものが多い。この他、コーカサス地方の栗をトルコ風のマロングラッセに仕立てたケスターネ・シェケリ、定番のロクム、綿菓子のようなピシマニエが美味しく人気がある。

6. ホテル

総領事館で利用実績が多いホテルは以下のとおり。

<タクシム地区>

● Hilton Istanbul Bosphorus

住所: Cumhuriyet Cad. Harbiye

電話: +90-(0)212-315-6000

タクシム地区に位置する5つ星ホテル。全室浴槽付き。ホテルは国際会議場に隣接しており、要人訪問の際の利用実績が多く、我が国要人の受け入れに定評有り。海側の部屋からはボスポラス海峡が見渡せる。ホテル内には高級中華レストラン(龍 ドラゴン)がある。



● Point Hotel

住所: Topçu Cad. No:2 Taksim

電話: +90-(0)212-313-5000

タクシム地区に位置するホテル。一部浴槽付き。ホテル道路脇にイスタンブール空港及びサビハギョクチェン空港行きの空港シャトルバスが停車するため、交通の利便性が高い。1階には、日本料理居酒屋レストラン優曇也(うどんや)がある。



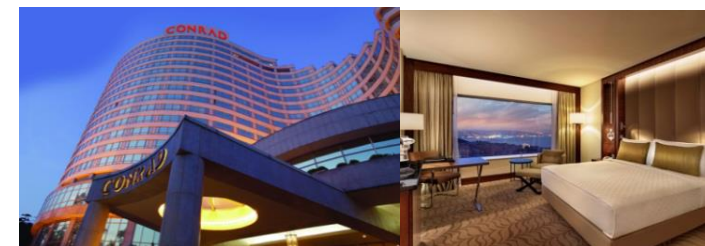
<ベシクタシュ地区>

● Conrad Istanbul Bosphorus Hotel

住所: Cihannüma Mah. Saray Cad. No:5 Beşiktaş

電話: +90-(0)212-310-2525

ベシクタシュ地区に位置する5つ星ホテル。一部浴槽付き。海側の部屋からはボスポラス海峡の眺めが見渡せる。2016年に改装が完了し、部屋の設備が新しい。上記ヒルトンとは同系列。



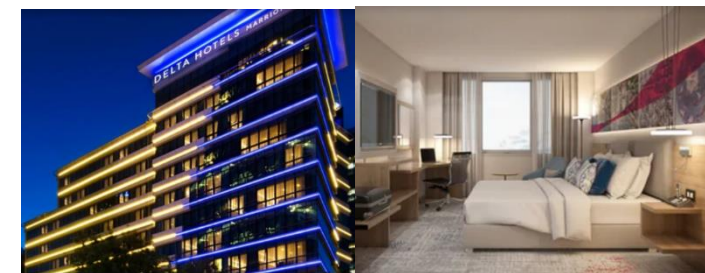
<レベント地区>

● Delta Hotels by Marriott Istanbul Levent

住所: Büyükdere Cd. No: 187 Şişli

電話: +90-(0)212-401-6699

2021年にオープンした、レベント地区に位置する5つ星ホテル。浴槽付きの部屋は無し。メトロM2号線レベント駅及びショッピングセンターに隣接しており立地が良い。総領事館から徒歩約10分。



7. 旅行の際の注意

イスタンブールは、名所・旧跡が多く、魅力的な観光地である一方で、観光客を狙った犯罪も多いため、十分気を付ける必要がある。また、近年も市民が犠牲となるテロ事件が発生しているほか、各種犯罪の発生率は東京よりも高く、日本より一段高い防犯意識が必要。

(1) 治安状況

・2017年1月1日の ISIL によるテロ事件以降、数年間はイスタンブールにおいては大きなテロは発生していなかったが、2022年11月13日、新市街の繁華街であるイスティクル通りで一般市民6人が犠牲となる爆弾テロ事件が発生、2024年1月には ISIL によるサリエル地区に所在するサンタマリア教会襲撃事件、2024年2月には DHKP/C による裁判所襲撃事件が発生している。当地においてテロの脅威は引き続き存在することから、十分な安全対策が必要である。

・今後も「PKK」や「ISIL」等による、トルコ政府関係機関や外国人を狙ったテロの発生には十分な注意が必要であり、人が多く集まる場所への立寄りをできる限り避ける等注意する。

〔注意事項〕

- 必要のない限り、警察・軍関係の車両、建物に近づかない（警察施設や車両を撮影しない）。
- 置き去りにされた鞆、袋、包み等の不審物を発見した場合には近づかない。
- 街頭のゴミ箱には、なるべく近づかない。
- 公園のイスに腰掛ける際はイスの下、及び周辺に不審物が無いか十分注意する。
- 公共交通機関など不特定多数の人が集まる場所では、周囲の状況に注意を払い、不測の事態に巻き込まれないよう安全確保に努める。

(2) 大規模抗議デモ

当地ではデモが頻繁に行われ、数百人規模のデモも珍しくない。最近では、2023年10月にイスラエル・ガザ情勢に伴い、当地イスラエル総領事館前で警察官が動員される大規模なデモが発生、2025年3月のイスタンブール市長の拘束を受け、共和人民党（CHP）や学生を中心にイスタンブールを含むトルコ全土で抗議運動が発生しているため、安易にデモには近づいたり写真を撮ったりせず、デモに遭遇した場合には、速やかにその場から離れる。

(3) ぼったくりバー

観光地等で旅行客等のふりをして、偶然の出会いを装い、「日本が好きだ。」「友人になりたい。」等と言葉巧みに飲食に誘い、女性が接客するバーに連れて行かれる。バーで法外な料金を請求され、所持していた現金を脅し取られたり、ATMでキャッシングを強要される等のいわゆるぼったくりバー被害が多発している。観光地等で知り合った者から紹介された怪しい店の利用は控える。

(4) 悪徳じゅうたん店

特に、スルタンアフメット地区及びその周辺において、日本語で話しかけるなどして親しく接近し、食事や酒を振る舞った後、頃合を見て絨毯屋に案内し、言葉巧み、かつ、執拗に法外な値段で絨毯を売りつけようとする事案が発生している。事前に料金を確認し、納得して購入することが大切である。購入の意思がなければ毅然と断ること。

(5) 銃器犯罪

レストランや路上等において、トルコ人同士の口論などのトラブルがエスカレートした発砲事件が多発しており、時に銃撃戦に巻き込まれ周囲の市民が負傷する事案も発生している。例えばレストランで大きな声で怒鳴り合う声が聞こえた時、街中で連続したクラクションが聞こえた時、また警察官がトラブル

を仲裁しているところを見たときなどは、近寄らず早めにその場を離れること。またもし大きな破裂音を聞いた時は、躊躇せずに低い姿勢を取り、遮蔽物に隠れるなど迅速に身を守る行動をとること。

(6) タクシー料金詐欺

遠回りをする、釣り銭をごまかす等して客に対し不当な料金を請求する悪質タクシーも散見される。
(ただし、イスタンブールは一方通行も多く、悪質な遠回りかはわかりにくい面もある。)
タクシーは、タクシー乗り場やホテルから乗車するようにし、「流し」のタクシーへの乗車は、できるだけ避けることが望ましい。

(7) 置き引き、スリ

トプカプ宮殿やブルーモスク等の観光地において、見学に夢中になっている隙に鞆が開けられ、旅券、財布等の貴重品が抜き取られる盗難事案が発生している。また、メトロやバザールにおいても、人ごみに紛れスリを行う者もいる。この手の犯罪は、プロの犯罪集団によるものと考えられるケースが多く、鞆や上着、ズボンのポケットなど、盗まれやすい場所に貴重品を入れておかないように心掛けるとともに、デイバッグやショルダーバッグなどはしっかりと体の前方に置くことが大切である。

(8) 性犯罪

観光地や土産物屋等で日本語や英語で話し掛けられ、食事等に誘われて、人気の無い場所やホテルに連れて行かれるような事案が発生しており、特に女性が1人で行動する際には注意が必要である。

(9) 路上強盗

観光地等で旅行者等を装い、日本語で話しかけるなど親近感を与えて油断させ、人気のない公園や路地裏等に誘い込み、待ち受けていた仲間と共に、暴行を加えたり、凶器をちらつかせるなどして金品を強奪する強盗事案がまれに発生している。特に夜間の一人歩きの際は細心の注意が必要である。

(10) 災害

トルコは日本と同様に地震のリスクが高い国であり、イスタンブール地震基本計画によれば、30年以内にイスタンブールで大地震が高確率で発生するとされる。地震への備えや準備をしておくことが重要である。

8. 日本からの航空便

(1) 直行便

ターキッシュエアラインズ(トルコ航空)便(ANAと共同運航)がイスタンブール～羽田・成田・関西間を運航している。

ANAが2025年2月12日よりイスタンブール～羽田間を週3便で運航開始。

(2025年5月21日現在)

	曜日	TK便名	出発時刻	到着時刻
イスタンブール→羽田	毎日	TK198	02:00	19:20
羽田→イスタンブール	毎日	TK199	21:45	04:50 (+1)

イスタンブール→羽田	月・水・土	NH220	17:25	10:50 (+1)
羽田→イスタンブール	月・水・土	NH219	08:15	15:25

イスタンブール→成田	毎日	TK50	15:50	09:05 (+1)
成田→イスタンブール	毎日	TK51	10:35	17:45

イスタンブール→関西	毎日	TK86	02:10	19:00
関西→イスタンブール	毎日	TK87	22:25	04:55 (+1)

※ターキッシュエアラインズは2008年4月からスターアライアンスに加盟。

(2)その他の航空便情報

当地からはターキッシュエアラインズのヨーロッパ、中東、アフリカ、アジア諸国への直行便が多くあり、乗り継ぎで日本へ向かう乗客も多数いる。またイスタンブールに乗り入れている外国の航空会社で、当地経由日本行き便も多数ある。

9. 主な連絡先

トルコ国番号90 イスタンブール・ヨーロッパ側市外局番0212

(1)在イスタンブール日本国総領事館

開館時間:09:00－12:00／13:30－16:30(土曜、日曜、祝日等は休館日)

所在地:Consulate-General of Japan,

Tekfen Tower 10th Floor, Büyükdere Cad. No:209, 4. Levent, 34394, Istanbul

電話: +90-(0)212-317-4600 (緊急時24時間対応)

FAX: +90-(0)212-317-4604

E-mail: 領事班 ryoji@it.mofa.go.jp
 広報・文化班 culture@it.mofa.go.jp
 経済班 ekonomi@it.mofa.go.jp

(2)トルコの緊急通報番号

112 (市外局番必要なし／警察、消防、救急)

(3)病院

- インターナショナル/アジュバーデム病院.....電話: +90-(0)212-444-0663/468-4444
- アメリカン病院.....電話: +90-(0)212-444-3777/5777

(4)イスタンブール国際空港 (ヨーロッパ側)

電話(代表): +90-(0)212-444-1442

(5) サビハ・ギョクチェン国際空港（アジア側）

電話(代表): +90-(0)216-588-8888

(7) 主要航空会社

トルコ航空(TK)	電話: +90-(0)212-444-0849 (コールセンター・24 時間対応)
全日本空輸(NH)	電話: +800-448-824657 (コールセンター・24 時間対応・日本語対応)
ペガサス航空(PC)	電話: +90-(0)888-228-1212 (コールセンター・24 時間対応)
アナドルジェット航空(VF)	電話: +90-(0)850-333-2538
エミレーツ航空(EK)	電話: +90-(0)212-315-4545
エティハド航空(EY)	電話: +90-(0)212-326-8626
エールフランス航空(AF)	電話: +90-(0)212-375-5777
カタール航空(QR)	電話: +90-(0)212-296-5888
KLM オランダ航空(KL)	電話: +90-(0)212-375-5776
シンガポール航空(SQ)	電話: +90-(0)212-463-1800
ルフトハンザ航空(LH)	電話: +90-(0)212-266-5703